

激動の経営

る。同社はフツ素樹脂製品の総合メーカー。「世界のフツ素屋」を掲げ、国内外で生活や産業を支える。社長の庄野直之は「責任を買ってもらっている」と自社の姿勢を説明する。

世界のフツ素屋

スタジアム、半導体、食品工場、水道管。一見して共通点を捉えにくいのが、すべて中興化成工業の製品が重要な役割を担っている。市場をつくり、広

中興化成工業

①

責任を売る



中興化成工業が製造するフツ素樹脂製品は多岐にわたる(同社提供)

げてきた。

多方面に展開

設立時から受け継がれるのが「どげんしたと(どうされたの)でなか」精神だ。これに導くことを目指す。この理念を体現するに

業を成した創業者・木曾重義が幼少期から使ってきた言葉を基にする。相手を気にかける

また水道管などに用いるシールテープは、ネジ山にかみ合わせて漏水を防ぐ。設立初期を支え、現在にも続くロングセラー商品だ。

自社も高耐久に

「東京ドーム」の天井(内膜)をはじめ建材として世界で活躍する。半導体関連では、基板のほかに製造装置の各年に社長に就いた。

モノづくり、課題解決の手段

中興化成が貫いてきた精神は、庄野にも宿る。庄野は「課題解決のためにモノづくりは前提だ」と力を込める。「モノづくりが本質ではなく、課題解決の手段となるために製品をつくらなければならない。事業の入り口にあるのは親切心だ」と説く。

他方で出口にあるのが「責任を売る」と。製品の耐久性ゆえに、メーカー自身も「高耐久」であらねばならない。「屋根材は40年以上もつ。長期スパンで責任を負えなければ顧客は使ってくれない」とし、「製品が

数十年もつということ。そのメーカーも数十年間存続することが前提だ」と力を込める。23年には設立60年を迎える。企業としての成熟が進むが、果敢な挑戦でフツ素樹脂の可能性を開き、自社を強くする試みも続く。(敬称略)

▽所在地 東京都港区赤坂2の11の7▽社長 庄野直之氏▽設立 1963年(昭38)3月▽資本金 3億4500万円▽従業員数 450人(単体)▽連結売上高 124億円(21年3月期)